

「EU の新経済成長戦略『欧州 2020』 - 賢い成長、持続可能な成長、包括的成長のための戦略 - 」
Europe, Summer2010、駐日欧州連合代表刊を読む

EU の新経済成長戦略「欧州 2020」

- 1 . (1) 欧州連合 (EU) は「欧州 2020 (Europe, 2020)」と EU が短期的には経済・金融危機の影響から脱出する 的な経済成長を達成することを目指すものである。
(3) 「欧州 2020」が掲げた 国民は今後それぞれの経済状況を勘案した国別目標を設定し、それが のかどうか欧州委員会と協議する。 ()
- 2 . (1) 今次の世界経済・金融危機は、EU 経済に大きな打撃を与えた。2009 年には EU の国内総生産 (GDP) は 4 % 縮小し、工業生産は 90 年代の水準まで落ち込んだ。そして、多くの雇用機会が喪失し、失業者は 2,300 万人に達した。税収の落ち込みと景気対策のための支出増により、過去 20 年間に築いてきた財政健全化の努力はこの 2 年間で大きく損なわれた。今や、財政赤字は GDP の 7 % に、政府債務残高は同 80 % 超に膨れ上がった。
(2) 経済・金融危機はまた、欧州が抱える構造的弱点を浮き彫りにした。EU の研究・開発 (R&D) 投資は、対 GDP 比で、日本の 3.4 %、米国の 2.6 % に対し、2 % と低い。また、この 10 年間に日米との生産性格差が広がった。さらに、EU の労働時間は、日・米より 10 % 短い。人口高齢化は進み、戦後のベビーブーマー世代の定年により、2013 年あるいは 14 年を境に経済活動人口は減少に転じる。
(3) EU27 カ国は経済の相互依存が非常に強く、一国で起きたことが EU 全体に影響を及ぼす。従って、EU が一丸となって、景気回復という喫緊の課題や、グローバル化、資源確保、人口高齢化といった長期的課題に立ち向かわなければ、EU は「失われた 10 年」に直面することになる。
(4) 言い換えれば、EU は今、重要な転換点に立っている。現世代のみならず次世代も健全な生活を享受し、欧州で培われた社会モデルを継続するために、各加盟国のニーズと経済・社会・政治状況を考慮した「欧州 2020」を実施し、EU 全体の成長を高めなければならない。
- 3 . 成長のカギは「知識」「低炭素」「高雇用」
(1) 2010 年までに達成すべき最重要課題として、「欧州 2020」は以下の 3 つの相互に補充し合う

「成長」を掲げている。

賢い成長(Smart Growth)

知識とイノベーションを基礎とする経済の実現

持続的成長(Sustainable Growth)

資源を有効活用し、環境を重視した、競争力のある経済の推進

包括的成長(Inclusive Growth)

経済的、社会的な地域間の結束を高める、高雇用水準の経済の育成

(2)「欧州 2020」は、この 3 つの「成長」を実現するために 5 つの重点目標を掲げている。これらの目標は、統計的に信頼できるデータにより達成度の測定・比較が可能であり、加盟国の多様な状況を勘案できるものである。

女性・中高年・移民の労働力比率を高め、20 ~ 64 歳の有業率を現在の 69 %から少なくとも 75 %に引き上げる

R&D 投資の対 GDP 比率を 3 %に引き上げるという目標を引き続き掲げ、R&D とイノベーションの集約度を示す指標を開発する

温室効果ガスの 90 年比 20 %削減、最終エネルギー消費における再生可能エネルギーのシェアの 20 %への引き上げ、エネルギー効率の 20 %向上を図る

中途退学者比率を現在の 15 %から 10 %へ引き下げ、30 ~ 34 歳の人口における大学卒業生比率を 2020 年までに 31 %から少なくとも 40 %に引き上げる

各加盟国にかける可処分食分布の中央値の 60 %(貧困レベル)以下の低所得者数を 25 %削減し、2,000 万人超の人口の可処分所得を貧困レベル以上に引き上げる

(3)これらの目標は相互に関連している。例えば、教育水準が上がれば、雇用率が高まり貧困の削減に寄与する。R&D 投資を増やすとともに資源の利用効率を上げれば、EU の競争力が高まり、新しい雇用機会が生まれる。

[コメント]

2000 年 3 月、EU 加盟国首脳は、2010 年までに EU を「より良い職業をより多く創出し、視野会連帯を強化した上で、持続可能な経済成長を達成しうる、世界中で最もダイナミック、かつ、競争力ある知識経済の地域に発展させる」という目標を「リスボン戦略」(Lisbon Strategy)としてまとめた。今回の「欧州 2020」Europe2020 ; The EU's New Strategy for Growth」2000 年の「リスボン戦略」を継承、発展、深化させるものと私は考える。欧州の限りなき挑戦に敬意を表すと同時に、10 年後の日本のあり方を考えるわれわれ日本の参考にさせて頂きたい。